

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

お ん ね な い

月刊 根内 通信

—— 2022 年 11 月号 No.314

11 月 15 日 (火) 発行 ——



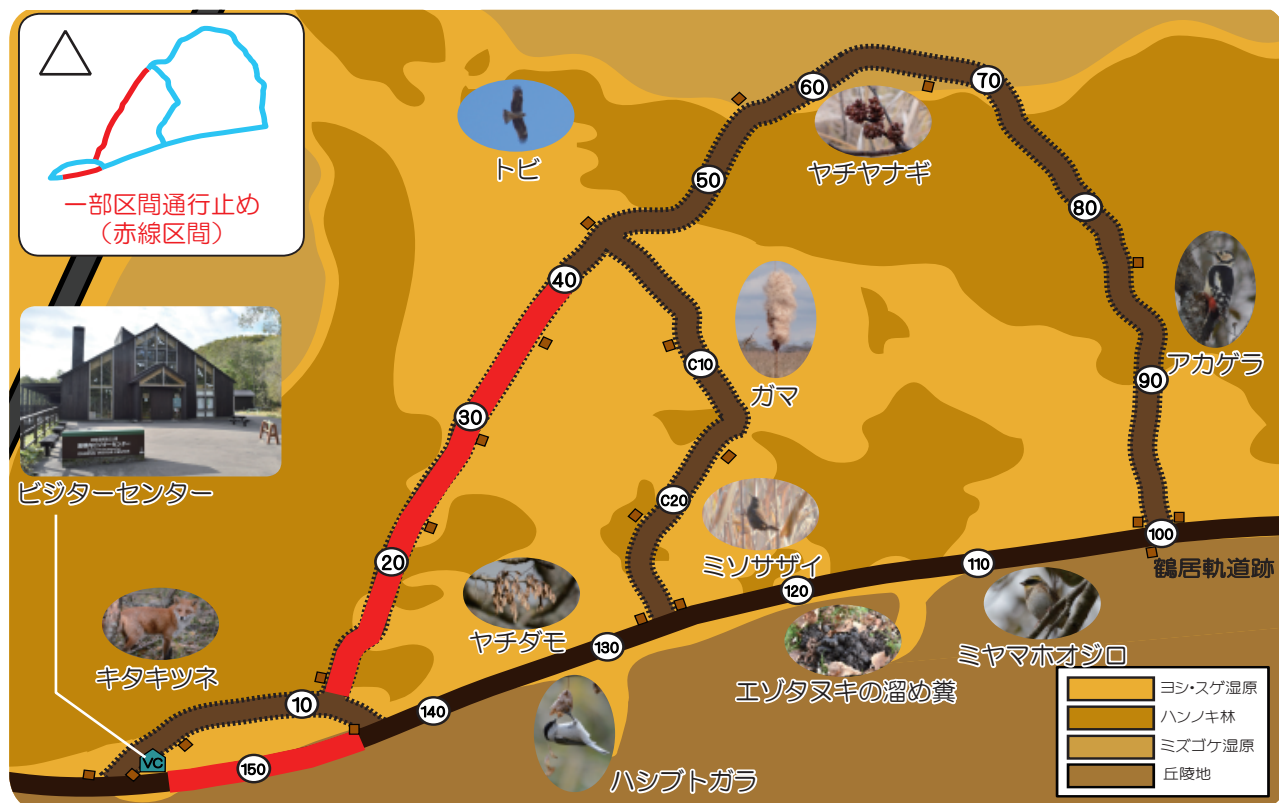
ハンノキ林に耳を澄ますと

賑やかな鳥の囀りがすっかり聞かれなくなり、湿原は静かになってきました。

そんな中、ハンノキ林の奥から、「コ・コ・コ・コン!」という軽快な音。1羽のアカゲラが必死に木を突いていました。すると、カラ類やキバシリが周りにいつの間にか出てきて、餌を探しているのです。

静かに思えても、実はけっこう近くで鳥たちは活動しているのかもしれません。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（10/15～11/14） ☆☆☆



【ガマ（実）】
ガマ科 蒲
フランクフルト状の果穂の中から、綿毛のような種子を風に載せて散布します。



【ヤチヤナギ（実）】
ヤマモモ科 谷地柳
ミズゴケ湿原に小さな粒状の実がついています。目立たないのでよく探してみてください。



【ヤチダモ（実）】
モクセイ科 谷地柳
今年豊作な木の実のひとつです。枝先にぶら下がっていますがそのうち風に乗って飛んでいきます。



【エソタヌキの溜め糞】
イヌ科 蝦夷狸
タヌキは同じ所に糞をする習性があり、数箇所に見られます。初めて見るとギョッとする規模です。



【キタキツネ】
イヌ科 北狐
ビジターセンターの近くにふと現れることも。暖かそうな冬毛をまわっていました。

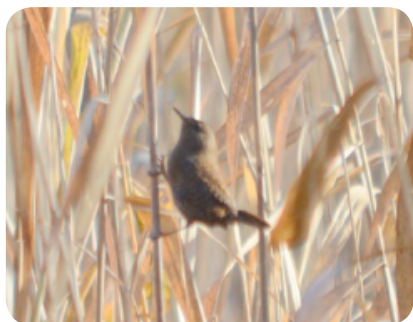
もうすぐ見られるかも！



2021年12月11日撮影
【オオワシ】「冬の使者」がもうすぐ見られるかもしれません。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた野鳥（10/15～11/14） ☆☆☆

野鳥たちにとって今は渡りの季節。温根内では旅鳥のシジュウカラガンが初めて確認されました。また、ツグミなどの冬鳥もちらほら見かけられるようになりました。個体数は多くはありませんが、いつもとは違う野鳥が見られるかもしれませんよ。



【ミソサザイ】 夏鳥
ミソサザイ科 鶺鴒
ヨシの間から少しだけ姿を見せました。温根内では渡りの途中と思われる個体が通過していきます。



【ミヤマホオジロ】 冬鳥
ホオジロ科 深山頬白
4年ぶりの確認でした。オスの黄・黒の模様は学名(Emberiza elegans)通りのエレガントさ。



【ハシブトガラ】 留鳥
シジュウカラ科 嘴太雀
他の種と混群を作って行動しています。この日はサワシバの実をむさぼるように食べていました。

○温根内木道周辺で観察された鳥（10/15～11/14）

鳥（和名は日本鳥類目録第7版の順）	10	アカゲラ	20	ヒバリ	30	タヒバリ
1 シジュウカラガン (11/4 温根内初確認)	11	クマゲラ	21	ヒヨドリ	31	アトリ
2 オオハクチョウ	12	ヤマゲラ	22	ウグイス	32	カワラヒワ
3 キジバト	13	モズ	23	エナガ	33	マヒワ
4 タンチョウ	14	カケス	24	ゴジュウカラ	34	ベニマシコ
5 トビ	15	ハシボソガラス	25	キバシリ	35	シメ
6 オジロワシ	16	ハシブトガラス	26	ミソサザイ	36	ミヤマホオジロ
7 ノスリ	17	ハシブトガラ	27	アカハラ	37	アオジ
8 コゲラ	18	ヒガラ	28	ツグミ	38	オオジュリン
9 オオアカゲラ	19	シジュウカラ	29	ビンズイ		

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「秋の紅葉を見に行こう」

10月16日 参加者：6名 講師：大山重治（森林インストラクター）・藤原伸也（温根内 VC 指導員）

秋も深まったこの日、森林インストラクターの大山氏を講師に迎えて、温根内周辺の樹木の紅葉を楽しみながら散策しました。鶴居軌道沿いの赤や黄色に染まった木々の葉を前に、大山氏からは「そもそも紅葉とはどういう現象なのか？」を解説いただき、今年の紅葉の出来と夏場の気温の関係性などについても教えていただきました。また、葉を落とした樹木に見られる葉痕や



冬芽から樹種を判別できることも、実物を観察しながら理解することができ、冬を迎えるこれからの時期にまたひとつ楽しみを持って植物を観察できることに、参加者も喜んでいました。鶴居軌道沿いの丘陵地を少し離れた場所から見ると、ミズナラの黄葉が進んでおり、針葉樹の緑と黄色の美しいグラデーションが目を引きました。いろいろな視点から植物を眺め、知ることでできた一日となり、参加者も短い秋を堪能できた様子でした。



○「初冬の植物を見に行こう」

11月13日 参加者：9名 講師：加藤ゆき恵（釧路市立博物館）

やがて厳しい冬を迎える釧路湿原で、植物たちがどのような準備をし、次世代へ繋げようとしているかを観察する恒例の初冬の植物観察会を行いました。講師の加藤学芸員は、ビジターセンター裏のツルウメモドキの実を早速見つけ、赤く目立たせた実を鳥などの生物に食べて運んでもらい、その分布を拡大する戦略を解説いただきました。歩を進めると、同じように動物に食べてもらうように実をつけたヤマブドウ。その隣にはサワシバの木にも盛大



に実がついており、中から種子を取り出して見せてもらいました。湿原

内に入ると、ヨシやガマの穂が風に揺れ、晩秋の風景を醸し出していました。これらは風に乗せて種子を運ぶ、風散布型の植物。一方、湿原の水面にはタヌキモの葉が浮かんでおり、これをすくい上げてみました。するとその先には殖芽と呼ばれる、越冬するための芽を既に作り出しており、こちらは冬支度を進めているようでした。枯れて茶色に染まった湿原も、よく見ると様々な植物の息吹が聞こえてくるような観察会となりました。



木道を歩いていると、地面にいろんな樹木の実が落ちています。いくつか拾ってみると、同じ種類の実でも微妙に大きさや模様が違って、見ていてとても面白いですよ！



ヤチダモの実



イタヤカエデの実

○ 自然ふれあい行事 ⇒お申し込み ☎ 0154-65-2323

♪ 湿原の「かたち」を見て歩こう

〔日時〕12月4日（日）10:00～12:00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）〔参加費〕無料〔場所〕温根内ビジターセンター
花や葉が枯れ落ち、遠くまで見渡せるこの時期。普段注目しない湿原周辺の「かたち」にスポットを当てて散策します。



○ 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み ☎ 015-487-3003

♪ シマエナガフィギュアを作ろう

〔日時〕12月3日（土）13:00～15:00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕100円（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

♪ 塘路フィールドウォッチング ～初冬編～

〔日時〕12月17日（土）10:00～12:00

〔定員〕10名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～早い日の入りにご注意を～

道東地方は日没時間が早いので、特に午後には散策される場合は、お時間にご注意ください。ビジターセンター閉館時間の午後4時近くにはかなり薄暗く、足元が見えにくくなります。また、朝晩は氷点下まで冷え込みます。服装選びにも留意しましょう。

月刊 温根内通信 No.314

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel: 0154-65-2323 Fax: 0154-65-2185

E-mail: ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ: <http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/>

Facebook: 温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間: 9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）

休館日: 毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料